

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名 公益社団法人 国際日本語普及協会

1. 事業名称

港区における「生活者としての外国人」や難民が、新たな「繋がり」を得ることを目指した日本語教育の普及、及び新たな繋がりをつくる体制整備事業

2. 事業の目的

AJALTが難民支援の現場で長年培ってきた「生活者のための日本語教育」は、定住外国人と日本人が共に学び、育ち合う中で、人が繋がり、相互に良い関係を深めていくことを目指したものである。東京の中心に位置する港区という特性、地域性の中で、「生活者としての外国人」や難民への日本語教室を引き続き実施するとともに、その理念と方法を一モデルとして紹介しつつ、港区における定住外国人、日本語教育関係者、企業、自治体等もまた横の繋がりをつくり、問題を共有し、協力関係を築いていけるような体制の整備をする。

3. 事業内容の概要

①難民および日本語学習の機会に恵まれない「生活者としての外国人」を対象とした生活日本語教室を平成25、26年度に引き続き実施する。今年度は学習者の希望の強い文字学習に力を入れると同時に専門家の協力を得て日本文化体験などの活動も取り入れる。(取組2) ②日本語教室の現場から「生活者としての外国人」対象の教材を作成する。(取組2)③港区内で活動するボランティア団体、国際交流協会、港区の外国人担当課職員、企業等に呼びかけてネットワーク会議を開催し、情報交換をする。会議で話し合われたことから今後の活動の指針を得る。(取組1)④AJALTが難民支援の現場で長年培ってきた「生活者としての外国人」に向けた日本語教育の理念と方法についてボランティアの方向けに実践的なセミナーを行う。ワークショップ的な要素も入れ、このセミナーを通して参加者のネットワークが構築できるようにする。(取組3)⑤日本語教室を外部に開かれたものとし、③④の参加者、平成26年度事業に参加した支援者等に見学、参加を促し個々の活動に役立てていただく。⑥「生活者としての外国人」事業終了後は、文化庁ホームページ上に上記事業の活動内容および使用教材を公開し、支援者や学習者に役立てていただく。

4. 事業の実施体制について

下記機関、団体から主に以下の協力、連携を得て本年度事業を実施した。
1.港区国際交流協会(運営委員):本事業の企画・運営及び広報、参加者募集
2.港区(運営委員):本事業の企画・運営及び広報
3.公益財団法人 アジア福祉教育財団 難民事業本部(運営委員):本事業の企画・運営、参加者募集
4.浄土真宗本願寺派 光明寺(運営委員・在港区虎ノ門):本事業の企画・運営、日本語教室等の講座開催会場
5.株式会社アルーシャ(運営委員・在港区虎ノ門):本事業の企画・運営及び広報
上記機関、団体からの運営委員を交え3回の運営委員会および2回のネットワーク準備会議を開催した他、個別に港区国際交流協会を訪問、面談協議を行い本事業実施に当たった。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	伊藤 寛了	公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部
2	石上 和敬	浄土真宗本願寺派光明寺／武蔵野大学教養教育部
3	岩瀬 香奈子	株式会社アルーシャ
4	大友 正弘	港区国際交流協会
5	加来 順也	港区役所
6	内藤 真知子	公益社団法人 国際日本語普及協会
7	新野 佳子	公益社団法人 国際日本語普及協会
8	樋口 博	公益社団法人 国際日本語普及協会

【概要】 参照:参考資料1「運営委員会議事録」

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月16日(木) 18:30~21:00	2.5時間	国際日本語普及協会	伊藤寛了、石上和敬、岩瀬香奈子、大友正弘、内藤真知子、新野佳子、樋口博、(陪席)関口明子	1. 主催者挨拶および本年度事業について説明 2. 取組1-3につき、内容検討 3. 参加者募集、呼掛け先、呼掛け方法につき検討

2	平成27年9月7日 (月) 18:30～21:00	2.5時間	国際日本語普及協会	伊藤寛了、石上和敬、岩瀬香奈子、大友正弘、高木隆子(陪席)、関口明子(陪席)、内藤真知子、戸田佐和(陪席)、新野佳子、樋口博	1. 本年度事業中間報告 2. 取組1、3につき、今後の進め方につき検討
3	平成28年3月18日(金) 18:30～21:00	2.5時間	国際日本語普及協会	伊藤寛了、石上和敬、岩瀬香奈子、大友正弘、加来順也、高木隆子(陪席)、関口明子(陪席)、内藤真知子、戸田佐和(陪席)、新野佳子、樋口博	1. 本年度事業実施報告 取組1「日本語学習支援事業」、取組2「ネットワーク会議」、取組3「日本語支援フォーラム」 2. 本年度事業評価(意見交換) 地域における日本語教育の体制整備について 3. 今後の展開(意見交換) 平成28年度文化庁地域日本語教育実践プログラムについて

6. 取組についての報告

取組1：(ネットワーク会議)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

港区における定住外国人、日本語教育関係者、企業、自治体等が横の繋がりをつくり、問題を共有し、協力関係を築いていけるような体制の整備をする。

(2) 取組内容

先ず港区内で活動するボランティア団体、国際交流協会、港区役所のキーパーソンに呼びかけてネットワーク準備会議を開催する。港区の現状分析や港区が抱える課題等を話し合い情報交換を行うとともに、ネットワーク会議開催への準備を行う。その後、港区内で活動するボランティア団体、国際交流協会、港区の外国人担当課職員、企業等の代表者に呼びかけて、ネットワーク会議を行う。情報交換、共通の課題への取組などを話合当中で、連携を強化し、横のつながりを持つとともに、会議で話し合われたことから今後の活動の指針を得る。

(3) 対象者

港区内で活動するボランティア団体、国際交流協会、港区職員等の代表者およびAJALT関係者

(4) 参加者の総数 14 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	14人	

(5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全2回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年11月16日(月) 18:30~20:30	2	国際日本語普及協会	14人	「生活者のための日本語教育」について考える	港区の外国人の現状について、「生活者のための日本語教育」について考える、第1・2回日本語支援セミナー振り返り	加未順也、関口明子	内藤真知子(ファシリテータ)
2	平成28年1月25日(月) 18:30~20:30	2	国際日本語普及協会	7人	港区での日本語学習支援一学び合いの場づくりに向けてー	今年度の本事業を振り返って、意見交換「港区での日本語学習支援一学び合いの場づくりに向けてー」		内藤真知子(ファシリテータ)

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

参照:参考資料2「ネットワーク会議報告書」

活動例①

【第1回ネットワーク会議 2015年11月16日】

司会・ファシリテーター:国際日本語普及協会 内藤真知子

1. 「港区の外国人の現状について」(港区国際化・文化芸術担当課長 加来順也)
2. 「生活者のための日本語教育」について考える(国際日本語普及協会 関口明子)
3. 第1・2回日本語支援セミナー振り返り:文字教育・音声教育



活動例②

【第2回ネットワーク会議 2016年1月25日】

司会・ファシリテーター:国際日本語普及協会 内藤真知子

1. 今年度の本事業を振り返って
2. 意見交換:港区での日本語学習支援一学び合いの場づくりに向けてー
3. 懇親会



(8) 目標の達成状況・成果

会議参加者から寄せられた声「(連携には)時間がかかると思います。地道に継続して取り組むしかないと思います。」という意見に代表される通り、本年度事業だけで関係諸団体の連携が十分に実現したとは言い難いのが現状である一方、その緒につくことはできたと考えている。ネットワーク会議、その準備委員会等での話し合いを通して、行政のキーパーソンの方々との信頼関係が形成された。また数人の地域の支援者とも忌憚なく話し合うことができた。本年度に形成された良い関係性をベースに、今後ボランティア団体、港区国際交流協会、港区、AJALTが、「生活者としての外国人」に向けた日本語支援に連携協力して取り組んでいけるような体制づくりに向けて、AJALTとしての立ち位置や方向性が見えたことは本事業を実施したことによる成果といえる。一方、参加者からは「(連携のためには)ネットワーク会議のような話し合いの場をもっと多く開催してほしい。」「今回のような会を続けて輪を広げていくのはどうか」といった意見が多く聞かれた。本年度事業を、関係諸団体の連携のための体制づくりに向けた第一歩として位置づけたい。

(9) 今後の改善点について

本年度事業では、当初、期待したほど多数の団体からの参加者が集まらず、より幅広い意見聴取、意見交換ができなかった。その理由としては、すでに関係諸団体が個別に活動をしているため、あらためて連携していくこと、そのための会議に参加することに対する肯定的かつ共感的な反応が多数の関係者から得られにくかったことにあるように思われる。今後は、本事業実施を通してさまざまな協力を得た港区および港区国際交流協会との連携を深めるとともに、来年度事業として実施する日本語教室や支援者研修を足場として、更に多くの関係者が参加できる機会を設けながら、関係諸団体の連携を地道かつ継続的に図っていきたいと考える。

取組2:(難民及び主に港区在住の「生活者としての外国人」のための日本語学習支援事業)

(1)体制整備に向けた取組の目標

「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにする。

(2)取組内容

難民および日本語学習の機会に恵まれない「生活者としての外国人」を対象とした生活日本語教室を平成25、26年度に引き続き実施する。今年度は学習者の希望の強い文字学習に力を入れると同時に専門家の協力を得て日本文化体験などの活動も取り入れる。

(3) 対象者

難民及び主に港区在住の「生活者としての外国人」

(4) 参加者の総数 17 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 16 人

【出身・国籍別内訳】

中国	0人	インドネシア	0人	
韓国	0人	タイ	0人	・ミャンマー 16人
ブラジル	0人	ペルー	0人	・シンガポール 1人
ベトナム	0人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	0人	

(5) 開催時間数(回数) 80時間 (全40回)

(6) 活動の具体的内容 参照:参考資料7「日本語学習支援事業 授業報告」

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年5月7日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	6人	仲良くなろう(入門/初級) 自己紹介(入門/初級) 読み書き練習	お互いの名前を覚える 自分の好きな物、自己紹介 自己紹介(初級)、ひらがな(入門)	小形真佐子	井上紀代
2	平成27年5月14日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	仲良くなろう(入門/初級) 最近話題のニュース(初級) 漢字(初級)、かな(入門)	自己紹介の内容発展 ニュース理解、会話練習 グループ毎に読み書き練習	新野佳子	樋口博
3	平成27年5月21日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	最近話題のニュース(初級) 基本動詞(入門) 漢字(初級)、かな(入門)	ニュース理解、会話練習 1日の生活に沿った動詞学習 グループ毎に読み書き練習	小瀧雅子	松井治子
4	平成27年5月28日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	最近話題のニュース(初級) 基本動詞(入門) 漢字(初級)、かな(入門)	ニュース理解、会話練習 1日の生活に沿った動詞学習 グループ毎に読み書き練習	井上紀代	大上幸二
5	平成27年6月4日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	最近話題のニュース(初級) 基本動詞(入門) 漢字(初級)、かな(入門)	ニュース理解、会話練習 1日の生活に沿った動詞学習 グループ毎に読み書き練習	樋口博	小形真佐子
6	平成27年6月11日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	1日の生活(入門・初級) 生活の漢字・語彙(初級) ひらがな(入門)	1日の生活の語彙・表現学習、発表 生活に必要な漢字を覚え、語彙を広げる 清濁音復習、語彙書き取り等	松井治子	新野佳子
7	平成27年6月18日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	15人	交通経路(入門) 旅行パンフレット(初級) 漢字(初級)、かな(入門)	交通経路が説明できるようになる お出かけ、旅行パンフレット読み取り グループ毎に読み書き練習	小形真佐子	小瀧雅子
8	平成27年6月25日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	13人	交通経路(入門・初級) ひらがな(入門) 生活の漢字と語彙(初級)	各自のレベルに合わせて交通経路説明 拗音、拗長音読み書き 生活に必要な漢字知識と語彙を広げる	新野佳子	井上紀代
9	平成27年7月2日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	夏の行事体験(七夕) (入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本の季節の習慣・文化を学ぶ ひらがな復習(入門) 生活に必要な漢字の学習(初級)	小瀧雅子	樋口博

10	平成27年7月9日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	戸外学習:都庁見学 (入門/初級)	事前学習した交通経路等を参照、自力で目的地に辿り着く。見学をしつつ、与えられた課題に沿って必要な情報を得る	樋口博	松井治子 新野佳子 大上幸二
11	平成27年7月16日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	7人	戸外学習の振り返り(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	見学の振り返りと感想の発表 カタカナ(入門) 生活に必要な漢字の学習(初級)	松井治子	大上幸二
12	平成27年7月23日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	最近話題のニュース(初級) 文法学習(入門) 文字学習(入門/初級)	ニュース理解と会話練習 ない形とその表現 生活漢字(初級)、カカナ(入門)	井上紀代	小形真佐子
13	平成27年7月30日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	夏の風物(初級) 文法学習(入門) 文字学習(入門/初級)	日本の夏の風物、自分の夏思い出語り ない形とその表現 生活漢字(初級)、カカナ(入門)	小形真佐子	新野佳子
14	平成27年8月6日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	お盆 文字学習(初級) 文法学習(入門)	お盆を通じて日本の文化習慣を知る 生活に必要な漢字の学習 「た形」および「た形」を使った表現学習	新野佳子	樋口博
15	平成27年8月20日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	ニュース読解(初級) 文法学習(入門) 文字学習(入門/初級)	ニュースの表現学習、意見を述べる 動詞ない形、て形、た形復習 生活漢字(初級)、カカナ(半)濁音(入門)	小瀧雅子	大上幸二
16	平成27年8月27日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	日本の災害、防災(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本の災害、防災についての基本的知識を学ぶ 生活漢字(初級)、カカナ拗音(入門)	井上紀代	小瀧雅子
17	平成27年9月3日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	8人	写真や物を見せながら自分語り(Show&Tell)① 文字学習(入門/初級)	講師のまとめた話を聞き、質問しながら会話をつなげていく練習 生活漢字(初級)、カカナ語彙(入門)	樋口博	井上紀代
18	平成27年9月10日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	6人	写真や物を見せながら自分語り(Show&Tell)② 文字学習(入門/初級)	自分語り/発表者のまとめた話を聞き、質問しながら会話をつなげていく練習 生活漢字(初級)、カカナ語彙(入門)	松井治子	大上幸二
19	平成27年9月17日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	ミニスピーチ(入門/初級) 日本の秋:花(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	発表「日本語について」 花を通して日本と自国の文化比較 生活漢字(初級)、漢字入門(入門)	小形真佐子	大上幸二
20	平成27年9月24日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	お月見の会(入門/初級) 歌の発表(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本の伝統的な和室見学を通じて、日本の文化・マナーを学ぶ/発表:島人ぬ宝等 生活漢字(初級)、初めての漢字(入門)	新野佳子	小形真佐子 ナン ヴォー ティップ(通 訳)
21	平成27年10月1日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	体の名称、病状表現(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	体の名称の言い方、病状の表現につき学習 生活漢字(初級)、曜日の漢字(入門)	小瀧雅子	新野佳子
22	平成27年10月8日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	診療科、医者との会話、薬種類・用法(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	診療科、薬の種類と用法学習、医者とのやりとり練習 生活漢字(初級)、曜日の漢字②(入門)	井上紀代	小瀧雅子

23	平成27年10月15日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	ニュース読解(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	自転車の安全運転についての情報を理解し、自分の意見を述べる 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	樋口博	大上幸二
24	平成27年10月22日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	マイナンバー制度(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	マイナンバー制度の概要、送付される郵便物について理解を深める 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	松井治子	井上紀代
25	平成27年10月29日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	9人	郵便物、不在連絡票(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	郵便物への理解を深め、不在連絡票の取り扱いができるようにする 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小形真佐子	樋口博
26	平成27年11月5日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	郵便物、請求書(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	ポストに入っている郵便物、請求書(電気、ガス)から要点を読み取る 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	新野佳子	松井治子
27	平成27年11月12日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	職場で待遇表現(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	職場等での適切な待遇表現につき学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小瀧雅子	大上幸二
28	平成27年11月19日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	職場で待遇表現②(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	職場等での適切な待遇表現につき学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	樋口博	新野佳子
29	平成27年11月26日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	8人	日本の秋③:紅葉(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	「紅葉」について学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	井上紀代	小形真佐子
30	平成27年12月3日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	11人	季節の風物詩としての紅葉見物 日本式庭園の特徴	「日本の秋」テーマの一環:紅葉見物六義園の見学を通して日本式庭園の特徴を体験的に学ぶ	松井治子	小瀧雅子 新野佳子 大上幸二
31	平成27年12月10日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	13人	日本の国土、都道府県(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本の国土や都道府県について、基本的事項を学び、理解を深める 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小形真佐子	大上幸二
32	平成27年12月17日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	年末・年始の挨拶、年賀状(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本の文化習慣(年末・年始の挨拶、年賀状)を学び、実際に年賀状を書く 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	新野佳子	井上紀代
33	平成28年1月7日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	8人	日本の文化習慣(書道、書初め) (入門/初級)	日本の文化習慣(書道、書初め)を学び、実際に書初めを書く	井上紀代	松井治子 大上幸二 小形真佐子
34	平成28年1月14日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	8人	動詞のグループ分け(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本語の動詞のグループ分けを学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小瀧雅子	樋口博
35	平成28年1月21日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	7人	動詞の活用形・文型(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	日本語の動詞の活用形・文型を学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	樋口博	大上幸二

36	平成28年1月28日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	7人	動詞の活用と表現(入門/ 初級) 文字学習(入門/初級)	日本語の動詞の活用とそれを使った 表現を学ぶ 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	松井治子	小形真佐子
37	平成28年2月4日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	13人	節分(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	2月の行事、節分を楽しみ、季節への 理解を深める 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小形真佐子	新野佳子
38	平成28年2月18日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	5人	発表会の準備:招待状 作成(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	招待状を作成し、持参して発表会へ の出席を依頼する 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	新野佳子	小瀧雅子
39	平成28年2月25日 (木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺 派光明寺	8人	発表会の準備:スピーチ準 備(入門/初級) 文字学習(入門/初級)	スピーチ原稿作成、スピーチ練習 生活漢字(初級)、基本漢字(入門)	小瀧雅子	大上幸二 新野佳子 小形真佐子
40	平成28年3月3日 (木) 18:30~21:00	2.5	浄土真宗本願寺 派光明寺	10人	伝統行事(入門/初級) 発表会(入門/初級) 懇親会(入門/初級)	雛祭と四季折々の行事 ミニスピーチ 練習曲披露、皆勤賞授与等	井上紀代	樋口博 松井治子 小瀧雅子

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【第20回 2015年9月24日】

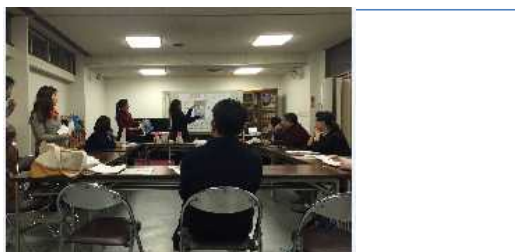
1. お月見の会:日本の伝統的な和室の見学を通じて、日本の文化に触れ、マナーを学ぶ
2. 歌の発表:これまで練習してきた日本の歌「数え歌」、「島人ぬ宝」
3. 文字学習:生活に必要な漢字(初級グループ)、初めての漢字(入門グループ)



活動例②

【第40回 2016年3月3日】

1. ひな祭りなど日本の行事について学ぶ
2. スピーチ発表練習、懇親会・練習曲「島人ぬ宝」(歌&ピアノ伴奏)披露の準備
3. スピーチ発表
4. 懇親会(練習曲披露、皆勤賞授与)



(8) 目標の達成状況・成果

これまで3年間継続して日本語学習支援事業を実施してきた結果、過去の参加者を中心として口コミでも本事業が難民コミュニティに広がり、年々参加者が増えてきている。
参加者からのアンケート結果では、大半の参加者が「プログラムを受けて日本語が上手になったと思う」、「プログラムを受ける前よりも日本での生活ができるようになった」と答えており、全員が本プログラムに満足し、今後も日本語学習の継続を希望している。このことから、「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと考える。

(9) 今後の改善点について

前年からの継続学習者に加え日本語力の低い新規学習者が参加したこと、参加者の個人的事情により長期間欠席の後再び参加する学習者がいたことから、学習者間の日本語力レベル差が広がっている。結果、本年度は特に日本語力が低い参加者への手当てがどうしても疎かになってしまう傾向が見られた。そこで次年度は、レベル別2クラスでの事業実施を考えている。
本事業開催場所である光明寺は、地域住民の交流のためさまざまなイベントを開催している。本事業でも、光明寺や港区、港区国際交流協会等と連携しながら日本人との交流の場も企画していきたいと考える。

取組3: (地域日本語フォーラム)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

「生活者としての外国人」と日本人が共に学び、育ち合う中で、人が繋がり、相互に良い関係を深めていくことを目指す。その中で地域住民が日本語教育の重要性や活動内容への理解を深め、日本語支援のブラッシュアップを図れるようにすることを目的とする。

(2) 取組内容

AJALTが難民支援の現場で長年培ってきた「生活者としての外国人」に向けた日本語教育の理念と方法についてボランティアの方向けに実践的なセミナーを行う。ワークショップ的な要素も入れ、このセミナーを通して参加者のネットワークが構築できるようにする。セミナー1回目: 取組2のテーマとして行っている「生活者のための文字教育」の実践紹介と効果的な文字指導のあり方を考える。セミナー2回目: 音声指導および「わかりやすい日本語」の話し方講習会、並びにワークショップを行う。セミナー3回目: 行動・体験中心の日本語教育の実践紹介ならびにワークショップを行う。

(3) 対象者

港区内で活動するボランティア、国際交流協会、港区の外国人担当課職員、港区教育委員会、企業で働く人、日本語教育に興味を持つ一般の方

(4) 参加者の総数 22 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	1人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	21人	

(5) 開催時間数(回数) 6 時間 (全 3 回)

(6) 取組の具体的内容 参照: 参考資料11「地域日本語フォーラム報告書」

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月28日 (月) 18:30~20:30	2	国際日本語普及協会	13人	文字教育いろいろ	資格・能力試験対策 生活漢字 年少者の漢字	戸田佐和、 松井治子、 関口明子	内藤真知子 (ファシリテータ)
2	平成27年10月26日 (月) 18:30~20:30	2	国際日本語普及協会	16人	音声教育いろいろ	音声教育についてーシャドウイングの 効用 身体にうったえる音声指導ープロソディ	津田訓江、 内藤真知子	新野佳子 (ファシリテータ)
3	平成27年12月14日 (月) 18:30~20:30	2	国際日本語普及協会	7人	生活日本語支援実践例 ～私たちの場合	文字教育・音声教育実践例 トピックを基にした実践例 教室活動例	樋口博、新 野佳子、内 藤真知子	樋口博 (司会)

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第1回 2105年9月28日】詳細は別紙「日本語支援フォーラム報告書」参照

文字教育と言っても、対象や学習者のニーズによって、やり方も切り口もいろいろあり、一つの教え方が絶対というものではない。AJALTの教師も実際、いろいろな試みをしているが、その中からいくつかの文字教育について、例として考え方や支援方法を簡単に紹介した。AJALTの講師が参加者に教えるという姿勢でなく、皆さんに自由に発言して頂くのを促す例として、3人の講師が話しをし、最後にまた参加者と話し合いをする時間をもった。自己紹介をしたことで、参加者の背景が分かり、また少人数でもあったので、皆、参加意識をもって参加できた。

・漢字指導の留意点・専門別漢字など (30分) 講師: 戸田佐和

テーマ: 「漢字学習のサポート 漢字は面白い」

・外国人が漢字に対して持つイメージを疑似体験した後、漢字を難しくさせている3つの要素について具体的に検証した。

・政治、経済、ビジネス、法律、国際関係などに興味を持つ学習者がそれぞれの専門分野の日本語習得が短期間に達成でき、新聞を読めるようになるために作成された「専門別漢字」のテキストのコンセプトや他教材との違いを検討しながら、専門別漢字の学習法について考えた。

テーマ「生活漢字」(30分) 講師: 松井治子(30分)

・生活漢字とは何か、また幾つぐらい必要か、生活のいろいろな場面でどんな能力が求められるかなどを検討した。

・具体例としてマイナンバーのお知らせに使われる漢字を取り上げた。

・実践例と読み書きのための参考教材サイトを紹介した。

テーマ「年少者の漢字」(30分) 講師: 関口明子

年少者への漢字指導のありかたについて

・年少者の漢字学習の負担を減らし、漢字を好きになってもらうよう工夫する。

・インドシナ難民の子供たちへの漢字指導から生まれた四技能重ね塗り方式について子供コースのカリキュラムを例に具体的に説明した。(学年配当別漢字を網羅、教科学習重視、グループ分けの方法、単語単位、絵で意味理解、楽しいゲームなど)



活動例②

【第2回 2015年10月26日】詳細は別紙「日本語支援フォーラム」報告書参照

テーマ: 「音声教育について考えてみましょう」 講師: 津田訓江(45分)

①音声教育はとすると比重が少なくなりがちだが、心にとめておきたいこと

完璧な発音は望めなくても、言葉の区切りとしてイントネーションを意識すれば、話は格段に伝わりやすくなる。

②スピーチを聞いてあの人は日本語が上手というのはどこからきているかを考え、音声に関わる問題が大きいことを知る。

③「シャドウイング」学習法の紹介

自然な話し方のためのトレーニング方法として、最新のテキストを使って紹介。シャドウイングの練習方法を紹介するとともに、参加者全員で講師の後に付き、またCD音声を使って、実践練習を行った。

④シャドウイングで聴解能力が上がる。

テーマ: 「プロソディー心と身体にうたえる楽しい音声指導ー詩を声と身体で表現する活動」 講師: 内藤真知子(45分)

①プロソディの効果

・プロソディが持つさまざまな効果について話した。

短時間でも毎日の繰り返しで、日本語の発音やリズム、イントネーションなどが体得できる。

・日本語の能力差を超えて共有できる学習素材となる、クラスの共感的な雰囲気や協働的な学習に向けた教室文化を創りだす。学習者をリラックスさせ、自分を表現しやすくなる。語彙の拡大、文法の無意識的な刷り込みが可能である。詩、俳句、諺などを通じて日本文化をふれる機会となるなど。

②プロソディ体験

「母音体操、ことばことばことば、さよならさんかく、生きる」などの素材を使って、参加者が実際に体験することで、上記の効果を実感した。



(8) 目標の達成状況・成果

1回目文字学習のアンケートでは「文字(漢字)指導にいろいろな方法・工夫があることを知り、これからの支援に生かしていきたい。」2回目音声教育では「色々な学習アプローチがあることを知り、大変勉強になった。音声教育を取り入れてみたい。」3回目「生活日本語実践例」では「学習者とともに作る教材、学習内容に興味を持った。刺激を受けた。」などの意見が多かったです。また、音声教育の参加者からは「難しそうに見える日本語も日本文化の一つとして口ずさむことで良いのではないかと思います。音声支援については自分の感性を高めることが、学習者が実感を持って勉強できることにつながる。」といった気づきも得られました。

こうしたアンケート結果から、3回のフォーラムで、生活日本語の支援には、様々な教え方やアプローチ、教材があり、学習者に合わせて応用していくことなどを伝えることができたと考えます。支援の一部の紹介ではあったが、AJALTの生活日本語支援の実践を具体的に発信したことで、参加者に改めて日頃の支援方法や内容を振り返る機会を提供でき、今後の活動の参考にして頂けた。

※各回のアンケート結果(詳細)については別紙「地域日本語フォーラム報告書」参照

(9) 今後の改善点について

「様々な例が提示され理解が深まった」という意見とともに、「もっと実践例を聞きたい、もっと時間が欲しい」という意見もあった。限られた時間でどういったプログラムを組むかは難しい問題ではあるが、今後は支援者研修などの機会を使い、支援内容や具体的な支援の方法などをより丁寧に伝えていきたい。港区内のボランティア団体の参加が少なかったことより、AJALTの実践例紹介と意見交換がメインになり、区内のボランティア団体同士の実践例報告や問題点の共有までは出来なかった。今後、今年度に培った諸機関との関係・連携を深め、ネットワークを広げていくことによって、生活者に対するよりよい日本語支援を目指していきたい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

AJALTが難民支援の現場で長年培ってきた「生活者のための日本語教育」は、定住外国人と日本人が共に学び、育ち合う中で、人が繋がり、相互に良い関係を深めていくことを目指したものである。東京の中心に位置する港区という特性、地域性の中で、「生活者としての外国人」や難民への日本語教室を引き続き実施するとともに、その理念と方法を一モデルとして紹介しつつ、港区における定住外国人、日本語教育関係者、企業、自治体等もまた横の繋がりをつくり、問題を共有し、協力関係を築いていけるような体制の整備をする。

(2) 目的・目標の達成状況

取組1「ネットワーク会議」においては、本年度事業だけで関係諸団体の連携が十分に図れたとは言い難いのが現状ではあるが、本年度事業を実施するに当たり港区、港区国際交流協会や区内ボランティア団体の協力が得られ、今後の連携に向けての足場づくりができたと思う。
取組2「日本語学習支援事業」においては、参加者からのアンケート結果結果からも、「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと思う。
取組3「地域日本語フォーラム」においては、多角的な視点からの実践例の紹介を通して生活日本語の支援には、様々な教え方やアプローチ、教材があり、学習者に合わせて応用していくことなどを伝えることができたと思う。参加者に日頃の支援方法や内容を振り返る機会を提供でき、今後の活動の参考にして頂けた。

(3) 地域における事業の効果、成果

取組1「ネットワーク会議」、取組3「地域日本語フォーラム」には、当初想定して規模の人数は集まらなかったが、その企画、準備段階から実施後の本年度事業評価に至る過程において、港区、港区国際交流協会の協力が得られ、関係機関が今後連携協力して日本語支援を継続していくことに対する共通認識が得られた。また本年度事業を通して、行政として多言語対応のみならず、共通言語としての「やさしいにほんご」の重要性についてもより一層理解を深めていただくことができた。行政との連携という意味において意義ある成果が得られたと思う。他方、本事業を通して、日本語支援とは全く縁のなかった地域在住者がAJALTおよび本事業について関心を寄せてくださり、地域の情報誌に協会を紹介する記事が掲載されるというような展開があった。このように生活者としての外国人に対する日本語支援の重要性について港区という地域に向けて発信ができたことは成果であり効果であった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

事業実施に当たり、港区および港区国際交流協会関係者とネットワーク準備会議の場を設けた。結果、港区および港区国際協力協会から取組1「ネットワーク会議」および取組3「日本語支援ネットワーク」に対して後援協力を得た。さらに港区国際交流協会からは、これまで港区内のボランティア団体と連携してきた知見からさまざまな助言を受け、本事業実施において協力をいただいた。公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部からは、難民コミュニティや関係者への広報等において協力を得た。AJALTに隣接する浄土真宗本願寺派光明寺には、本年度も取組2「難民及び主に港区在住の『生活者としての外国人』のための日本語学習支援事業」の会場提供において協力をいただき、さらに地域住民のコミュニケーション促進活動を推進する立場からも助言、協力をいただいた。AJALTが港区という地域を拠点に活動をしていることをこれまで以上に実感し、さらに今後ともこの地域に根を張り活動していくことを意義を再認識する機会となった。

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

取組1「ネットワーク会議」および取組3「日本語支援ネットワーク」を港区後援事業として実施することになった結果、港区内38の公共施設で本事業広報の掲示をさせていただき、関係団体へ広報においても情報提供等を得ながら周知に努めた。
港区内のボランティア団体への広報においても、港区国際交流協会の助言を得ながら周知を図った。
本年度事業の成果、来年度事業の実施、広報等今後の取組に関する発信においても、港区役所および港区国際交流協会と協議の上継続的に進めていきたいと考える。

(6) 改善点、今後の課題について

上記に述べてきた通り、地域の日本語教育の体制整備については、本年度事業のみで十分な成果が得られたとはまだ言えないが、港区及び港区国際交流協会との協力体制については本年度、確実に深めることができた。今後は、地域のボランティア教室等関係団体との横の繋がりを更に進めていくことが必要であると考えている。来年度事業として実施する「日本語支援事業」を地域の関係者に開かれた場所とするとともに、「支援者研修」の機会を捉えて地道な活動を継続発展させていきたいと考える。

(7) その他参考資料

参考資料1 第1、2、3回運営委員会議事録

参考資料2 ネットワーク会議報告書
参考資料3 ネットワーク会議ご案内
参考資料4 ネットワーク会議アンケート
参考資料5 第1回ネットワーク準備会議議事録
参考資料6 第2回ネットワーク準備会議議事録
参考資料7 日本語学習支援事業 授業報告
参考資料8 日本語学習支援事業 出席簿
参考資料9 日本語学習支援事業 ご案内(日本語、英語、ミャンマー語版)
参考資料10 日本語学習支援事業 アンケート
参考資料11 地域日本語フォーラム報告書
参考資料12 地域日本語フォーラム ご案内
参考資料13 地域日本語フォーラム アンケート
その他添付 日本語学習支援事業 作成教材リストおよび作成教材一式